

	所 属	現代社会学部 現代社会学科
	専 攻	専攻
	主な担当科目	政治学 メディア論 現代の日本社会
	氏 名	三木 賢治
	フリガナ	ミキ ケンジ
	職 位	教授
	学 位 等	政治学士(早稲田大学)

研究内容・社会業績等

らい予防法(1996年廃止)によるハンセン病患者の強制収容・終生隔離政策の実態はどのようなものであったか、また、同法はどのような政治過程から生まれたかを明らかにする研究。2001年に厚生労働省が設置したハンセン病問題に関する検証会議の検証委員を委嘱され、らい予防法を憲法違反だったと結論付けた同会議最終報告書の取材・執筆に携わった。以後、全国のハンセン病回復者からの聞き取り調査を続け、様々な著作やメディアを通じ、成果を発表している。同時に社会福祉法人ふれあい福祉協会による偏見・差別をなくす取り組みにも積極的に協力している。

主著 …… ▽『東北人』(毎日新聞社1976年、共著)
 ▽『母校賛歌 わが青春の秋田高校』(毎日新聞社1977年)
 ▽『無重力の風土 秋田人を考える』(秋田書房1978年)
 ▽『都会の空はにごってた 終戦っ子87人の軌跡』(毎日新聞社1978年)
 ▽『事件記者の110番講座』(毎日新聞社1995年)
 ▽『“隣り”の研究 県民性大解剖』(毎日新聞社1996年、共著)
 ▽『東北むら半世紀』(無明舎出版1996年、編著)
 ▽『東北の100人』(無明舎出版1996年、編著)
 ▽『報道される側の人権』(明石書店1997年、共著)
 ▽『論憲の時代』(日本評論社2003年、共著)
 ▽『裁判官になるには』(ペリカン社2007年)
 ▽『検察官になるには』(ペリカン社2009年)

論文 …… ▽『“らい予防法”とメディアの責任』(「新聞研究」2005年5月号)
 ▽『警察と新聞の間』(「捜査研究」1999年8月号～2003年3月号連載)
 ▽『犠牲、考——東日本大震災の教訓として』(東北文化学園大学総合政策学部紀要2012年3月)
 ▽『ハンセン病療養所退所者実態調査報告書』(共著・社会福祉法人ふれあい福祉協会、2018年) ▽『らい予防法廃止から25年アンケート報告書』(共著・社会福祉法人ふれあい福祉協会、2021年)

学生へのメッセージ

学生の本分は、多くのことに関心と興味を抱き、疑問を抱くことだろう。物事をよく考え、なぜだろう、おかしくはないか、と思ったら、その理由を調べてみる。それが進歩につながる。講義でも、一緒に疑問を見つけることを大切にしよう。